

授業 科目名	【G】	法思想史	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2	
	【H】	法思想史			【H】3		【H】2	
	【I】	法思想史	その他参照		【I】3		【I】2	
科目区分	専門科目							
授業形態	対面開講							
担当形態	単 独							
施行規則に定める科目区分又は事項等								
サブ タイトル	法の思想史的理解				担当者	松野 有		
授業概要	【概要】	<p>法思想史は、読んで字のごとく、法の思想に関する歴史的記述を主たる内容としている。法とはいかなるものであるか？といった問いは、3000年以上の歴史をもって未だに解決をみない問題群なのである。</p> <p>本講義では西洋において、古代から現代までどのような法思想があったのかを概観する。ここで、対象を「西洋」と限定しているのは、東洋の法思想が重要ではないからではなく、東洋の法思想については先行研究が少ないことによるものである。もっとも、西洋の法思想は古代から現代まで連続と継続してきていることも事実であり、これらを学習することが、法を理解するための第一歩であることは間違いない。</p> <p>学問の性質上、事実の記述といった側面が多くならざるをえないが、法の動態性を目の当たりにできることも、法思想史の醍醐味である。たとえば、ロックの思想がアメリカ独立に多大な影響を及ぼしたようにである。法についての根本的な理解に繋がる法思想を学ぶことは、実定法を解釈するうえでも大いに役立つだろう。</p>						
	【到達目標】	<p>法思想の基本的な知識・概念を理解し習得することが本講義の目標となる。たとえば、古代のアリストテレスが提唱した正義論が、現代のロールズ正義論にどのような影響を及ぼしているかなどを理解し、習得することである。</p> <p>法思想史は法哲学で学んだ事項をさらに深く理解するのに適するという側面をもっている。しかし、法哲学を履修していない者でも十分理解できる講義内容となっているため、あくまで独立した講義であることに留意してほしい。</p> <p>実定法の解釈のに寄与できるような法思想をひとつでも習得することが、本講義の到達目標となる。</p>						
履修条件	特になし							
アクティブラーニングの方法	【－】	事前学習型	【－】	反転授業	【－】	調査学習	【－】	フィールドワーク
	【－】	双方向アンケート	【－】	グループワーク	【－】	対話・議論型授業	【－】	ロールプレイ
	【－】	プレゼンテーション	【－】	模擬授業	【－】	PBL	【－】	その他
ディプロマ・ポリシーとの 関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	◎ (よく当てはまる)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	－ (当てはまらない)						
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	－ (当てはまらない)						
他科目との 関連性	法思想史は実定法をはじめ様々な分野の知識を横断する。特に法哲学との関連性が密接である。それに加え、世界史で学ぶ要素と重複することが多々あるだろう。							
教科書	授業中に、適宜、資料を配布する。							
参考書	中山竜一、浅野有紀、松島裕一、近藤圭介『法思想史』(有斐閣、2019年)							
評価方法	定期試験100%							
フィードバック 方法	教員が採点・評価をした答案を返却する。							
評価基準	定期試験の点数により評価を行う。90点以上の者には「S」、80点以上の者には「A」、70点以上の者には「B」、60点以上の者には「C」を与える。なお、試験欠席など、評価不能の場合には「F」とする。							

授 業 科目名	【G】	法思想史	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	法思想史	その他参照		【H】3		【H】2
科目名	【I】	法思想史			【I】3		【I】2
授業回数	授業内容						
1	法思想史とはなにか						
	予習:	なし	復習:	法思想史を学ぶ意義について復習する。			
2	自然法思想の源流						
	予習:	なし	復習:	アリストテレス等の思想内容を復習する。			
3	自然法思想と実定法						
	予習:	なし	復習:	自然法と実定法のつながりを復習する。			
4	自然法思想とキリスト教						
	予習:	なし	復習:	アキナスの思想について復習する。			
5	近代自然権・自然法思想						
	予習:	なし	復習:	ホッブス・ロックの思想を復習する。			
6	自然法思想から人民主権へ						
	予習:	なし	復習:	ルソーの思想内容を復習する。			
7	ドイツ観念論ーカント・ヘーゲルを中心にー (1)						
	予習:	なし	復習:	カントの思想内容を復習する。			
8	ドイツ観念論ーカント・ヘーゲルを中心にー (2)						
	予習:	なし	復習:	ヘーゲルの思想内容を復習する。			
9	ドイツ・イギリスの法実証主義ーベンサム・オースティン・ハートを中心にー						
	予習:	なし	復習:	法実証主義について復習する。			
10	アメリカの法思想ーリアリズム法学ー						
	予習:	なし	復習:	リアリズム法学について復習する。			
11	戦後の法理論ーラートブルフ・ハート・フラーを中心にー						
	予習:	なし	復習:	ハート・フラー論争を復習する。			
12	現代法理論の展開						
	予習:	なし	復習:	ハート・ドゥオーキン論争を復習する。			
13	現代正義論の思想史 (1)						
	予習:	なし	復習:	ロールズの正義論とその批判を復習する。			
14	現代正義論の思想史 (2)						
	予習:	なし	復習:	リバタリアニズムや共同体主義について復習する。			
15	試験実施・問題の解説						
	予習:	なし	復習:	試験問題について復習する。			
その他	<p>法哲学の授業と関連性の深い内容を取り扱うので、講義内容に関心のある生徒は、前期の法哲学Ⅰ、後期の法哲学Ⅱの授業の履修もすることが望ましい。</p> <p>※G・H・I各:【選択必修(ス)】</p>						